

# ブリ種苗放流技術開発事業\*

—紀伊水道外域におけるメジロの標識放流結果—

中地良樹

## 目 的

社団法人日本栽培漁業協会から委託されたブリ種苗放流技術開発事業で、本県沿岸域におけるブリの満1歳魚以降の生態を解明し、本種を対象とする漁業実態等の知見を得る。

詳細は「ブリ種苗放流技術開発調査、平成3年度報告、社団法人日本栽培漁業協会」として別途報告している。

## 方 法

### 1. 標識放流調査

平成3年10月29日に和歌山県西牟婁郡すさみ町地先にメジロ（天然魚）306尾を「'91すさみ放流群」として標識放流を実施した。

### 2. 関連調査

加太、串本、下田原で銘柄別漁獲量調査、加太、湯浅中央、白浜3港（白浜、富田、椿）、見老津、里野の5地区で有標識率調査を実施した。

## 結 果

### 1. 標識放流調査

平成2年度以前の追加再捕報告のあったのは、'89C浦神放流群が2尾の合計30尾、再捕率7.61%、'90大引放流群が4尾の合計99尾、再捕率21.95%、'90すさみ放流群が24尾の合計30尾、再捕率20.41%であった。

'91すさみ放流群では合計142尾の再捕があり、再捕率は46.41%であった。再捕は見老津沖飼付漁場に集中してみられ、すべて紀南沿岸域であることから同海域はメジロ級の越冬場であることが示唆された。

### 2. 関連調査

加太では、メジロ級の漁獲量が10月に過去最高の9tであった。串本では、まき網によるメジロの漁獲が顕著であった。下田原では、ハマチ級の漁獲量は前年より増加したが、メジロ級では減少した。

上記5地区の有標識率はそれぞれ、0.02%、0.06%、0.02%、0.66%、0.05%と極めて低かった。

---

\*ブリ種苗放流技術開発調査事業費による。